

「チーム論述書」

チーム番号 (2)

研究テーマ名 誰もが自分の“幸せのカチ”を大切にできる未来に向けて

自分らしい幸せを求めるクエスト：多様性を活かす新しい生き方

現代社会において、幸福の定義の多様化が進み、個人の価値観と社会全体の幸福のバランスが課題となっている。高知県では、人口減少や伝統文化の希薄化が進む中、新たな幸福の形を模索する必要がある。本研究では、「誰もが自分の“幸せのカチ”を大切にできる未来へ向けて、何ができるか」という問いを設定し、高知県をモデルケースとした新しい幸福追求のプラットフォーム“おらくえすと(以下：おらくえ)”の提案を行った。

1 幸せの再定義と現代社会の課題

1.1 幸せの多様性と現代社会のジレンマ

現代社会では、幸せの定義が多様化しつつあり、幸福は主観的であるからこそ、そこに人々の価値観や人生観が投影される¹⁾。経済的安定と心の豊かさの両立、社会とのつながりが生み出す充実感など、“幸せのカチ”は個人によって異なる。一方で、現代社会では変化への適応困難や未来への不安、社会的孤立と居場所の喪失、地域間交流の減少と伝統文化の希薄化といった課題が顕在化している。

1.2 幸せの再発見と新たなビジョン

これらの課題に対応するため、幸せの意味を問い直し、自分らしい豊かさのカチを見つける必要がある。地域特性を活かした幸福の形態を模索し、多様な在り方を認め合える社会を構想することが重要である。また、地域資源を活用した幸せの再構築や、個人と社会をつなぐプラットフォームの可能性を探ること、多様な“幸せのカチ”が共存しうる社会の実現が期待される。

2 おらくえ：多様な“幸せのカチ”を実現するプラットフォーム

2.1 “おらくえ”プラットフォームの背景と目的

高知県の地域特性を活かし、「不便を楽しむ」哲学を応用した新しいアプローチとして“おらくえ”を提案する。このプラットフォームは、多様な“幸せのカチ”の実現と融合を目指している。おらくえは、「不便を楽しむ」哲学に基づき、身近な幸せの再発見および多様性への配慮などを目的としている。

2.2 おらくえの特徴と社会課題へのアプローチ

“おらくえ”は、高知県独自の地域特性を活かした「人生の寄り道」要素やユーザー主導型の課題解決システム、コミュニティの形成を促す機能など、多彩な特徴を持っている。これらにより、地域間交流や多様な“幸せのカチ”を尊重することが可能となる。また、ゲーム要素を取り入れることで地域住民らがその土地の課題解決に参加できる仕組みが構築されており、個人と地域社会の新たな関係性の創造を目指す。

3 “おらくえ”で実現したい未来

今後は“おらくえ”の実地検証を行い、多様なクエストの調整や、挑戦者と依頼者との合意形成の複雑性などの課題を克服する。

“おらくえ”を通じ地域社会の課題を解決すると同時に個人が“幸せのカチ”を見つけるきっかけとなる体験を提供することで、身近な幸せに気付くことができ多様な“幸せのカチ”が共存する世界を目指す。

【引用文献】

1) 文化的幸福観-文化心理学的知見と将来への展望-, 内田 由紀子, 荻原 裕二, Japanese Psychological Review, 2012, 55, pp. 26-42.

公式 HP



公式 LINE

